

【タイトル】父と暮らせば〜アイ

【作者】原作…小野駿・竹岡英大 作…梅光学院中学校・高等学校演劇部

2021年度作品 (地区大会・県大会参加)

【作品紹介】

アイは、父と二人暮らし。アイの事が可愛くてたまらない父は、アイを笑わせることに命を懸けている。でも、アイには、どうしても笑えない理由があった。汗と涙と鼻水にまみれたお父さんの「愛」の奮戦記。

【登場人物の数】 2名(演出によっては5〜6名程度で上演可能)

【上演許可を得るための連絡先】

梅光学院中学校・高等学校

梅光学院中学校・高等学校

〒750-0019

山口県下関市丸山町二丁目9番1号

電話：083-227-1200

FAX：083-231-6835

父と暮らせば〜アイ

【登場人物】

父

アイ

音楽と共に、物語は始まる。

①はつめ

小学校6年生の姿のアイが、作文を読む。

アイ　私の家族。6年1組　シノハラアイ　私の家族は、お父さんだけです。お父さんは、一人で私を育ててくれています。たった2人の家族ですが、とても楽しい家族です。お父さんの口癖は「笑っていれば家族は幸せ」です。家に笑いがなくなったら、シアワセではなくなるんだそうです。だから、仕事でどんなに疲れていても、帰ってきたら一番私を笑わせようとしてきます。無理矢理くすべったりしてへるから、私は時々怒ります。そうしたらお父さんは泣きそつな顔をして「ごめんね、ごめんね」って謝ってきます。許してあげると、私の大好きなオムライスを作ってくれます。ちょっと面倒くさくて、うるさいお父さん。一緒に感動モノのDVDを観ると、泣きすぎてティッシュの箱を一箱つかってしまってお父さん。私は、そんなお父さんが・・・大きく息を吸って、強く、晴れやかに！大好きです！

アイの姿、消える。

②シンハラアイの家の家コンテナ

いきなり、父。　一人二役で一人芝居をしている。

父　「なあ、アイー聞いてくれ！父さんな、今度会社の宴会で出し物をするのじゃなかったんだー！」

アイ　「興味津々（へえ）」

父　「それでなーなんと父さんマジックを覚えたんだー凄いだろー！」

アイ　「うんっー！すげえ！」

父　「だろ〜？（ニヤニヤ）それでだーアイも見たんじゃないか〜？」

アイ　「何を〜？」

父　「おいおい。そりゃもちろん父さんのマジックだよーもうすっっっいの覚えたんだぞー！ー！」

アイ 「まあ。うん。見ようかな。」
父 「やっぱりアイならそう言うてくれると思ってたぞーじゃ、行くぞー」

父 マジックを披露！（たいしたことのないマジック）

アイ 「お父さん、すごーいー！」
父 「だろだろだろ！これやると、むちゃくちゃウケて、きっとアンコールが来るからな、お父さん、歌っちゃおうよ、もう、歌っちゃおうよ」

アイ 「(期待)なにを？何を歌うの？」

父 「(英語で)Amazing Graceの音は好き」
『Amazing Grace』の発音は**アメイジンググレース**を歌う。発音はそれっぽいがよく聞くと適当。

アイ 「お父さん、すごーいー！」

父 「だろだろだろ」

アイ 「私、お父さんが大好き！」

父 「アイー！」

アイ 「お父さんー！」

父 「アイー！」

アイ 「お父さんー！」

父 「アイー！」

アイ 「お父さんー！」

父 「アイイイイイイ！」

抱き合う演技。

父 「そうかそうか、そんなにお父さんの事が好きか。じゃあ、別のも見せちゃおうかなア……」

なんだか派手な衣装を持ち出して身に着け始める父。

アイが入ってくる。高校の制服。

父は準備に夢中で気が付かない。

アイ 「……ただいま」

父 「おおおおおーおおお、びっくりしたあ！」

アイは表情一つ変えない。

父 「お帰り。学校はどうだった？楽しかったか？」

アイ 「わからない。」

父 「そうかそうか……まあ、そつだよな。いや、わからないくらいがちょうどいいー明日が来るのがなおさら楽しみになるってものだ、なあ、アイー！」

アイ うん。

父 なあ、聞いてくれ！父さんな、今度会社の宴会で出し物をする事になったんだ！

アイ (立ったまま、無表情でうなずく) うん。

父 (イメトし時とは空気が違うので調子が狂いつつあるがそれも想定内)・・・それでなーなんと父さんマジックを覚えたんだ！凄いだろ！

アイ うん。

父 そうなんだ！そうなんだよ！父さんすごいんだ。いいか、見てろよ。

たいしたことのないマジックを披露！

父 拍手！拍手！

アイ (無表情でパチパチ)

父 ……歌うぞ、父さん歌うぞ。これ聞いたら感動で涙が止まらないぞ。いいか、歌うから、ちゅっ(ににに)座って(アイを座らせまじっ(…あれ？膝どっした？

アイ ……転んだ

父 (過剰に反応する)なにいい？転んだっすりむいてるじゃないか。よし、ちょっと待ってろ、今、消毒を…

アイ いいよ、自分でやれるから。

父 いやいやいやいや。

アイ 私、もう、高校生だし。

父 でもでもでもでも。

アイ 大丈夫・・・だと、思う。

父 ……そうか。

アイ ありがとう。(ううん)。

父 アイ！

アイ (ううん)。

父 びっくり、したか？転んだ時。

アイ ……しなかった。

父 そうか・・・アイ。

アイ ?

父、いきなり渾身の一発ギャグ。

沈黙。

アイ、部屋を出ていく。

父 今日もダメだったか・・・いや、あきらめちゃ駄目だ！アイ！お父さんはあきらめないぞー！よーしー！明日も、元気に、行ってみよう！

③アイの部屋 その2

アイが、学校に行く支度をしている。

父が、顔を押さえて部屋に駆け込んでくる。

父 うわあああああああ！アイ！大変だ！……い、今顔を洗ってたんだが、洗い終わって鏡を見てみたらなんと！父さんの顔が真っ白になってたんだああ！！

そう言っているが顔にパックらしきものをつけているのが丸わかりである。

父 まずいぞ、会社に行かなきゃいけないのに……どうしよう！

アイ無言で父のそばへ行き、パックを剥ぎ取る。

アイ はい。

父 あっ……

アイ 治ったよ。ほら。

アイ、手鏡を使い父に見せる

父 あ、あーうん。。あっありがとな！アイ！いやーさすが父さんのアイだー！うんうんいやーさすがだーあっはっはー！

5

学校に行こうとするアイ。

父が身体を使って道を塞いでいる。

アイ ……？……お父さん、何してるの？私、学校に行くんだけど…

父 ふっ……すまん。悪いがここを通すわけにはいかない。

アイ どうして？

父 『父さんはここを通れる』

父、ドヤ顔で言い切る。

アイ ……

父 ふっ、どうした、父さんの渾身のギャグに声も出ないかっさあ笑ってもいいんだぞ？(なぜかもう一度『父さんはここを通さな』うひゃひゃひゃひゃ(自分で超うける)笑ってもいいんだぞ、笑ってもいいんだぞ……からの～アイ！アイに素敵なブレゼントがあるんだー！

父、何やら箱を出す。

父 さあ早くこの箱を開けて見てくれ！

アイ うん……

父 早く早く。

アイ ……わかった。

アイが箱を開けると、それはびっくり箱だった。

驚かない、アイ。

父 何故だ！絶対びっくりさせられるってポップに書いてあったのに！私は騙されたのか！？

アイ お父さん、普通の人ならばびっくりしたと思う。多分。

父 何！？それではまるでアイが普通ではないみたいじゃないか！そんなわけないだろう、アイは普通の女の子だ。

アイ うん。でも私は……

父 顔の筋肉は正常に動くんだから。ほら、こうやって、笑ってみろ。

アイ (父の顔の真似をして、ぎこちなく笑い顔を作る)

父 可愛い！可愛いぞ、アイ！

アイ でも、これは……

父 普通じゃないとすれば、成功率がとんでもなく低い手術を生き延びた、奇跡のような女の子じゃないか。むしろそれを自慢しろ。胸をはれ！アイの脳みそは、難しい手術を乗り越えて、ちょっと疲れちゃったんだよ。だから、怒ったり笑ったり驚いたりするのは……気持ちを動かすがしんどくて、休んでるんだ。アイの感情は、(胸)ここで寝ちゃってるんだよ。そのうち、起きるよ。思い出すよ。

アイ そうかな……

父 お父さんが、思い出させる。どんなことをしても！

アイ うん。

父、アイを笑わせるために色々面白い事をする。

アイ あのう……

父 なんだ？

アイ お父さん、遅刻しちゃうよ？

父 むっ？なんだと？

父腕時計を確認する。

父 あああっ！！！ますい！電車まで時間が！！！乗り遅れたら会社に行き遅刻してしまおう！皆勤手当が減ってしまう！！！じゃあな！父さんは会社に行ってくる！この続きはまだ今夜！

そう言い捨てて父はダッシュ……と思いきや、急に戻ってきて。

渾身のギャグを一発カマス。

間。

父 アイ、楽しいなあ！我が家は！

アイ うん。

父 楽しいなあ！

アイ うん。

父、ダッシュで会社へ

アイ ……楽しい……その言葉は知ってる。昔、「楽しいって感じた事がある

」って覚えてる。でも……胸をたたたく眠ってるの……休んでるの……また……

暗転。

③お父さんがごぼんぼん

父、ここからか、道路整理のジャケットとヘルメット、誘導灯を持ち出して、身に着ける。

父 (誘導灯をふりながら) でもね、可愛いんですよ、これが。自分の曲を引いてる感じが全然信じられないくらい可愛いんですよ。あ、写真、見ますか？) ポケットからスマホを出して(ね、可愛いでしょ。マイって言うんですよ。車面がきたらいい) あ、ダメ！そこ入っちゃ駄目！(慌てて誘導灯をふりぬぐ) ああ、風間はね、営業職ですよ。まあ、いい会社ですよ。この夜はバイアスも認めたくないので……さ、なんでもって言われても……お金がね、いるんですよ。風間の仕事だけじゃなかなか……ちょっとクベツな症例なので、お金が必要ですね、それはそれなりにかかっちゃうんですよ。でも、もう一度手術してもらって、それは、少しは症状がよくなるんじゃないですか。マイちゃんのためならええやないですか……マイのためならね、なんでもないですよ。マイちゃんのためならええやないですか……もう一度、手術が受けられたら、もしかしたら、また……) 車面がきたらいい(はい、いいこといいこと、いいことですよ……小さい頃からね、好奇心の強い子でね、なんでも聞いてくるんですよ。それに答えてあげるとね、笑うんですよ。もうとびまりの笑顔で、笑うんですよ。それがまた、可愛いってね。たまたまなく、可愛いってね。

父、思っています。

舞台のどこかに、子どもの頃のマイ

遠くから呼びかけるように。そして父もまた遠くへ返事をするように。

アイ お父さんー！タツヤ君がね、いじわるするのーでもね、怖くて言い返せなかったら、なんだかね、(胸)このへんがね、なんかざわざわしてね、お父さん、これってなに？ワタシ、なんか、変？

父 それはねー、「オコッテル」ってことなんじゃないかなー。

アイ ちょっと違うの。ミナちゃんがおもちやを貸してくれなかったときの「オコッテル」とはちょっと違うの。

父 そうかあ、じゃあ、それは、新しい気持ちなのかもしれないなあ。

アイ 色んな「オコッテル」があるってこと？

父 そりゃあるよ。アイの中には、いろんな「悲しい」も、いろんな「楽しい」もある。

アイ なんかめんどくわい。

父 そんなことないよ。アイは、お父さんのギャクを見てどう思う？

アイ 面白いよ。

父 お父さんから叱られたらどう思う？

アイ 泣きそうになる。

父 それは、面倒くさい？

アイ そんなことない！

父 それとおなじくらい、その、新しいキモチも大事なキモチだよ。

アイ 新しいキモチ？

父 これから、アイは、どんどん新しいキモチに出会ってくんだな。そのキモチと仲良くできたらいいなあ。

アイ できるかなあ。

父 アイなら、できる。

アイ なんか、難しいなあ。

父 そうだな、難しいなあ。

アイ 難しいから、ちょっと・・・

スマホの着信音。

アイ、そのままストップ。

父、発信先を確認して、慌てて出る。

父 はい、もしもし・・・はい、はい、いつもお世話になっております・・・ええ？本当ですか？本当にアイの再手術をありがとうございます・・・ありがとうございます・・・はい・・・はい！いや、実はもうあきらめかけていたものですから・・・そうですか、はい、もちろん、再手術にはリスクが伴うというのはこの前ご相談した時にお伺いしましたので、覚悟しております・・・もちろんーもちろんお金がいくらかかっても、ただ・・・少しでも可能性があるのですしたら、アイが、アイがまた笑ったり、怒ったり、照れたり、あきれたり、喜んだり、いろいろ、いろいろできるようなことになるんだしたら・・・はい・・・(驚いた様子)それは・・・(困惑)それは、それだけは・・・わかりました・・・少し考えさせてください。こちらからお願いしておいて申し訳ありませんが・・・はい、また、こ

連絡します・・・(切る)・・・そんなことって・・・

父、ため息をついて、その場にすわりこむ。

アイ　ねえ、お父さん、キモチって難しいねえ！難しくってちょっとわくわくだね！

④リリリリ　その2

音楽。

父がノリノリで、おやじギャグを猛スピードで繰り出している。

父　なすがママなら　パパ　パイヤ　ニジマス　食べます　いただきます　ところで、ハマチはハウマッチ？　うおおおー！フルミ田の上にあるミカン　帽子を忘れてハットした　ぼた餅　落として　ポタツ　もち　素敵なワイシャツね　わーいーシャツフニが輪になる　サルが去る　キムチを食べたらキモチいい　ちゃんと野菜を　食べやさい　そのメロン食べるのやメロン　ミニミスが砂漠で叫んだ　み、みずー　ふとんがぶつとんだ　ねこがねころんだ　仏像をぶつぞー　壊れた時計は　ほっとけい　腐ったホットケーキは　ほっとけい！(玄関の気配を感じて)　おお、お帰りの、アイ！今日はな、父さんの渾身のギャグの連続だ！もうはらわたがよじれるよつな・・・

アイが入ってくる。

明らかに、制服のシャツが汚れ、乱れている。

アイ　・・・ただいま。

父　アイ！なんだ？どっした？

アイ　・・・

父　アイ！

アイ　・・・転んだ。

父　ウソつけ！お前この間も、転んだとか言っただけで、もしかして、あねも・・・

アイ　転んだ。

父　言いなさい。

アイ　・・・

父　言いなさい。

アイ　気味悪いって。

父　あ？

アイ　なんか、人形かロボットみたいで気味が悪いって。こっち見るなって、同じくラスに居るのもいやだって・・・それで、ここ、どんってされて、転んだ。

父　誰がそんなことを

アイ　ヤマグチさんと・・・タナベさん。

父　仲良しじゃなかったのか？

アイ わからない。「オコッテル」のかもしれない。
父 アイはなにも悪くないじゃないか。
アイ わからない。

父 そのこと、先生は知ってるのか？よし、お父さんすぐに学校に電話して・・・
アイ 痛かった。

父 は？

アイ ここ、押されて、倒れた時、痛かった。

父 ひどいことしやがる。

アイ でもね、なんともなかったの。

父 痛かったんだろう。

アイ 気持ちは動かないのに、痛いって思うんだね。「痛い」って気持ちじゃないんだね。痛いから悲しいとか痛いから苦しいって思うんだね。

父 ……

アイ お父さん、私、やっぱり普通じゃないんだと思う。気味が悪いんだと思う。みんなが持つてるものをもっていないんだから。

父 そんなことない、そんなことないぞ！

アイ 私は、本当に、生きてるのかな。

父 バカな事いうんじゃない！

アイ ……

父 アイ、ちょっとこっちに来なさい。

アイ、父の前に座る。

父 お父さんな、病院に、もう一度アイの手術をお願いしたんだ。

アイ うん。

父 一度はな、断られたんだけど、お父さん、あきらめきれなくて、何度も、何度も、なだめて、すかして、土下座して、暴れて、ケイサツ呼びますよとか脅かされても、それでも、頼んだんだ。どうしても、どうしてもって。

アイ うん。

父 そうしたらな、この間、脳外科の、ササキ先生、有名な先生。連絡くれてな、できるって。手術。やってみましょうって、言ってくれた。

アイ うん。

父 ただね、簡単なものではないのはわかるな。

アイ うん。

父 どうせ、病院から説明を受けると思うから、ぶっちゃけて言うぞ・・・その手術は、最初のやつよりももっと難しい。

アイ うん。

父 それでな、うまく行ったとしても、アイがもう一度、怒ったり笑ったりできるようになったとしても、もしかしたら・・・もしかしたら・・・

アイ うん。

父　もしかしたら・・・お父さんのことを忘れてしまつかもしれないんだそうだ。
アイ　・・・うん。
父　お父さんの顔も、お父さんと一緒に暮らした日々も、忘れてしまつかもしれないんだそうだ。
アイ　うん。
父　・・・でもな、お父さん、それでもいいかもしれない。アイが自分の事を気持ち悪いとか思わなくて済むなら、それでいい。
アイ　うん。
父　まだ返事はしてないんだ。アイが、手術するっていうなら・・・お父さん電話しようと思う。電話してお願いしようと思う。
アイ　・・・忘れたら、もう無くなるっ。
父　え？
アイ　私の中から、無くなっちゃったキモ子たちみたいに、忘れたら、お父さんは、私のお父さんではなくなるっ。
父　そんなことはない！お父さんはいつまでもアイのお父さんだ。どんなことがあっても親子の絆は切れたりしない！
アイ　なら・・・いいかも。
父　ああ・・・
アイ　わからないけど、お父さんがそういってる。
父　うん・・・そうか。
アイ　うん。
父　・・・もしかして、もしかして、もしかして、怖いと思ってないか？不安じゃないか？
アイ　全然。なんにも動かないから。(胸) じじい。
父　そうか、そうだよな。いいんだいいんだ。だからこそ、手術、受けよう。思い出そう。とりもどそう。二二二三三三したアイを、取り戻そう。
アイ　うん。
父　そうだそうだ、そうしてやうやうしてやう(何か落ち着かなさ) (アイはお父さんは、それでいいのっ)
父　(なぜか、少し怒っているやうに) 見えない(いいんだ、みまっまからやうに) 言っているじゃないか。
アイ　わかった。
父　受けるんだな、手術。
アイ　うん。
父　そっか。(複雑な気持ち) いいんだな。
アイ　いいよ。
父　いいんだな。
アイ　うん。
父　後悔しないな
アイ　うん。

アイが、立っている

父 (気が付いて) あああーアイ、いつからそこにー

アイ ちょっと前から。

父 ……もしかして、お父さんのことを心配して来てくれたのか？

アイ (コンビニの袋を示す) 明日の、パン。

父 ああ……そうだ、そうだよな。

アイ 先、帰るね。

アイ、帰ろうとする。

父 アイ！

アイ なに？

父 痛いなー。お父さん、ちょっとここ、殴られちゃって、痛いんだよなー。

アイ うん。

父 ……もうちょっと、ここに居てくれないか。

アイ うん。

アイと父、座る。少し、距離がある。

アイ ……前にも、こっして、座ってた事があった。

父 そうだったか？

アイ お母さんに叱られて、私が家出したとき。

父 ……そんなこと、あったっけ。

アイ 私が泣いてたら、お父さんが、歌を歌ってくれた。変な英語の歌。

父 覚えて……ないな。

アイ 私も、覚えてるのは、そういう事があった、ってことだけだけど。

沈黙。

父 明日、学校に行くの、怖くないか？休んでもいいんだぞ。

アイ 大丈夫。こういう時は、便利だよな。悲しいとか辛いとかないから。

父 でもなあ。

アイ 大丈夫だから。

父 (少しわざとらしく) おおおおー来たー！来た来た来たー！なんか降りてきたぞーグッドでナイスなアイディアが降りてきたぞー聞きたいか？聞きたいよな。

アイ 別に。

父 きーきーたーいーよーなー。

アイ ……

父 そうか、そこまで言うなら聞かせてやろう。あんな、怒ったぶりをするの

はどうか。

アイ 怒った・・・ふり。

父 感情が、気持ちが動いたふりをしてみるんだ。そうしたらもういいじめられる理由がなくなるわけだろう。同時に、相手をビビらせること尚いい。

アイ うん。

父 相手に自分がむっちゃ怒ってますアピールをするにはだな・・・まずは表情から。こんな顔で相手をにらむ！

父、眉にしわを寄せて起こった表情。

父 やってみて、ほら。

アイ、やってみる

父 もっと、もっとここにしわを寄せて。

アイ、やってみる。

父 いまいち迫力がないなあ、ほら、ここに力を入れて・・・

アイ、やってみる。

父 そうそう、いいぞいいぞ、それで、ここ言うんだ。「もう私にかまわないで！」

アイ (棒読み) もう私にかまわないで。

父 ダメダメ！ちゃんと真似して。「もう私にかまわないで！」

アイ もう私にかまわないで。

父 もう私にかまわないで！

アイ もう私にかまわないで。

父 もう私にかまわないで！

アイ もう私にかまわないで。

父 もう私にかまわないで！

アイ もう私にかまわないで。

父 そうじゃなくて・・・もっとシチュエーションをまきこちりしたほうがいいか。

(アイの手をとって自分の胸を示す)ここを力いっぱい押しみて。

アイ、押す。

父 弱い弱いー！もっとがっつんとー！

アイ、押す。

父、しりもちをつく。

父　　いいー今の感じナイスーカいっぱい押しして、それで、「私にかまわないでー」「っ
て叫ぶ。ほら、やってみて。

アイ、やってみる。

父　　惜しいーもう一回ー！

アイ、やってみる。かなりいい線。

父　　それから言うー！「あんだなんかダイキライー！」

アイ、父を突き飛ばして

アイ　　もう私にかまわないでーあんだなんかダイキライー！

父　　ここで椅子の一つでも投げれば

アイ　　ここで椅子の・・・

父　　そこは真似しなくていいから。

父とアイ、アクションをしつつ、怒鳴る。

アイも次第に父のまねをできるようになっていく

父　　あんだなんかダイキライー！私にかまわないでー！

アイ　　あんだなんかダイキライー！私にかまわないでー！

父　　何様のつもり？

アイ　　何様のつもり？

父　　なにもできないくせこー！

アイ　　なにもできないくせこー！

父　　顔も見たくない！

アイ　　顔も見たくない！

父　　声も聞きたくない！

アイ　　声も聞きたくない！

父　　あんだのことなんか忘れたい！

アイ　　あんだのことなんか忘れたい！

父　　だから、消えちゃえ、私の中から！

アイ　　だから、消えちゃえ、私の中から！

父　　もう、あんだなんかいらぬ！

アイ　　もう、あんだなんかいらぬ！

父　　ダイキライー！

アイ ダイキライ！
父 お父さんなんかダイキライ！
アイ お父さんなんか……

沈黙

父 どうした……？ダメじゃないか。ちゃんと真似しなきゃ。

アイ ……

父 お父さんなんかダイキライ。ほら、真似して。

アイ ……

父 言ってくれたら、お父さん、勇気出せる気がして。ごめんな、ほんとに入タシ
なお父さんでごめんな。でも、お願いだから、言ってくれ。アイ。

アイ ……

父 お父さんなんか……

アイ ……言いたくない。

父 アイ？

アイ 忘れたくない。

父 ……

アイ 私、泣くことも怒ることも、笑うこともできなくなっちゃったけど、これだけ
は言いたくない……気がする。

父 ……

アイ それにね、お父さんの事、忘れたくない……気がする。

父 ……

アイ あれ、なんだろう、これ、変なの。

父 アイ……

アイ でもね、手術、受けるね。

父 ……

アイ いつか、お父さんのギャグで思いっきり笑いたいから。手術、受ける。

父 うん。

アイ うん。

父 うん。

アイ あれ？これって、（胸）ここが動いてるって事？

父 そうだな。

アイ 少しだけ、動いたって事？

父 そうだな。

アイ これって、どんな気持ちなんだろう。

父 それは、お父さんにはわからないな、アイの気持ちなんだから。

アイ 私にもわからないよ。

父 じゃあ、アイが、手術を終えて、無事に戻ってきたら名前をつけよう。その気
持ちに、二人で、名前をつけよう。

アイ うん。

父 今まで誰も付けた事のないような、立派な名前をつけよう。

アイ うん。

父 約束しよう。

アイ うん。

父 ……だから、お願いがあるんだ。

アイ うん。

父 こんな弱っちいお父さんにさ、勇気をくれないかな。

アイ うん。

父 お父さんをうんと怒鳴ってほしい。「お父さんなんかダイキライ！」って。心の底ではアイが手術を受けないで、ずっとこのままできてほしいと思ったお父さんを怒鳴ってほしい。

アイ ……

父 ちょっとでも、一瞬でもそっと思っただお父さんを責めてほしい。

アイ でも…

父 お願いします

アイ ……

父 お願いしますっ！…！

アイ ……

アイ、父の手をそっととって。

アイ お父さんなんて、ダイキライ。

その言葉がこめられた「感情」になんと名前をつけねばいいのだろうか。

©まごころ…

やはり、父。一人二役で一人芝居をしている。

父 「今日は、アイの退院祝いを盛大にやろうと思いますっ！」

アイ 「はいっ！」

父 「アイさん、退院、おめでとっございませーす。なんと父さん、この日のために、マジックを覚えたんだー凄いだろー！」

アイ 「うん、すっごい。」

父 ……いや、違うな。もしも、アイが、いろいろ忘れてしまっていた時のバーションを準備しとかないとな…

アイ 「あの…」

父 「お父さんだよ、お父さん」

